

**一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会  
平成 26 年度 第 2 回倫理委員会 議事録**

日時 平成 26 年 10 月 10 日 7:00-8:00

場所 城山観光ホテル 5 階 546 会議室

出席委員：長谷川 徹（担当理事）、高橋 寛（委員長）、青木 保親、土井田 稔、  
松永 俊二

以上 5 名

欠席委員：川上 紀明、宗像 雄

以上 2 名

**議題**

**1 メンバー確認**

前回欠席した土井田委員の紹介があった。

**2 業務確認**

長谷川理事が本委員会の役割は、各委員会から問題提起され、理事会へ上申された事項で、理事会から本委員会へ審査を依頼される倫理的な問題を検証することであると説明した。基本的には「研究・診療・医師」の 3 つの倫理審査を行うことになるが、単一の委員会から問題があがってくるとは稀で、おそらくいくつかの委員会を横断的にコラボレーションしながら検討していくことになるだろうと発言した。

**3 理事会報告**

昨日の理事会で、新技術等検証委員会の岩崎理事から、報告があり議論された事項について、長谷川理事が以下のように説明した。

千葉の大鳥先生と村山医療センターの金子先生や藤林先生などが中心になって JALAS（綴りは川上先生のメールより）という研究会が立ち上がり、OLIF・XLIF についての症例登録を進めていこうとの動きがあるとの報告があった。

本件について理事会では、新技術についての症例報告は、今後保険収載等を考えるうえで厚労省へ働きかけるときの基本データとなるが、それが研究会レベルからあがってきたものではエビデンスレベルが低くなってしまいうため、JSSR 主導でやるべきとの総意であった。持田理事長からも、必要なことについては予算化や人員の確保等も、問題ないとの判断があったため、ジャラスが行おうとしている OLIF・XLIF の調査については、少し待ってもらえるよう、学会(理事会)から連絡をすることになる予定である。

以上について、下記のような議論や意見があった。

- ・ジャラスのみでなく、数多くの研究会が立ち上がっていることに問題はないか。今回のようなときに、コントロール不能になるのではないか。
- ・新技術がひとつ登場すれば、ひとつ研究会ができるという流れは自然であり、止められるものではない。
- ・各研究会に、JSSR 幹部の誰かが所属しているケースがほとんどなので、幹部同士で話し合いをしてもらうこともできる。
- ・数多くの研究会があるが、それらが JSSR の下部組織として稼動していれば統率が取れそうだが。
- ・MED の集計は日整会が行っているのだったか？
- ・MED の調査は、日整会で集計行っており、日整会の認定施設が調査の対象となっている。しかし十分なフォローアップができず回答率は 6 割程度と聞いている。
- ・同様に新技術である BKP の症例調査は、一個人で集計作業をしており、なかなか進んでいないと聞いている。組織立って取り組む必要があると考える。
- ・PED は日整会で、OLIF・XLIF は JSSR で行うということか？
- ・日整会で OLIF・XLIF の症例調査をやってもらうのは難しいだろう。JSSR のほうが機動性も高く、迅速に対応できると思われる。
- ・OLIF・XLIF は MED と異なり、メーカーが 100 パーセント数を把握しているので、MED よりは集計率は良くなると思う。
- ・メーカーでも学会で調査を進めて、データ化することは歓迎だと思う。メーカーは合併症の調査が不完全で、何か事件があって保険収載が取り消されることをもっとも恐れていると思われる。
- ・PLDD についても、JSSR で取り上げてもらえる可能性はあるか？ 合併症の調査が必要だと思われるが。
- ・どこかの委員会から理事会へ上申されれば、当委員会でも倫理審査を進めていくことになるだろうし、当委員会から理事会に対して上申することはできる。しかし基本的に当委員会は問題点を探したり指摘したりするよりも、問題があがってきたら動くと能動的な委員会である。
- ・BKP は整形外科のみならず放射線科や他の外科の先生などが行っていることがあり、整形外科内で調査してもその範囲を超えてしまっているところがある。
- ・しかし BKP については、症例報告の調査を整形外科がしているということが伝われば、他科への抑止力になると思う。
- ・症例調査をして学会が全体像を把握する前に、大きな合併症がメディアに載ってしまうとすべてが否定されてしまう。その前にきちんとしたデータベースを構築すべきである。

以上の議論を受けて、長谷川理事が、理事会へは OLIF・XLIF などの新技術について症例把

握を学会主導で進めて行きたいこと、具体的には JOA の行わない部分の新技术について、JSSR で研究会と連携しながら小回りよく迅速に調査を行ってほしいと提言する、とまとめた。

#### 4 今後の予定

次回の理事会は、1月の日整会専門医試験の日であることが確認された。

倫理委員会からの議題としては、前回議事録を報告事項として、今回の議事録が完成したら審議事項として提出し、上記の提言を上申することになった。

次回の倫理委員会の開催予定：2015年4月のJSSR 学術集会（福岡）にて

新技术等検証委員会の委員長でもある川上委員や、宗像弁護士（委員）も交えて、他の委員会とのコラボレーションなどについても話し合っていく。

以上